

麦穂だより

第 77 号

発行 武蔵野手打ちうどん保存普及会川崎 2021年10月
事務局 川崎市宮前区宮崎 2-2-4 エクセル佐々木 108
村田芳包 TEL.090-1427-7260
ホームページURL (<http://musashinouдон.dokkoisho.com/>)

「晴耕雨飰」

会長 北條 秀衛



「晴耕雨飰」これは私が座右の銘にしている造語であるが、文字どおり晴れた日は畑を耕し、雨の日は饅飰を打つということである。いつの頃からか定かでないが、年賀状に「晴耕雨飰」としたためたのが起源である。本来は「晴耕雨読」であるが、寄る年波には勝てず眼がめっきり衰えて、あれほど好きだった読書が疲れるようになってきた。飲みかつ喰らう長年の習慣から脱却し、肥満防止と運動不足解消、その結果としての糖尿病予防のために始めた畑は当初の10坪が今では700坪の広さになっている。始めてから既に35年が経過しており、年間およそ80種類の野菜を作っているがメインは麦と芋である。

後期高齢者になる1年ほど前から、ボケ防止に俳句が良いと妻からたびたび

聞かされてきた。妻は既に数年前から句会に入り句作を始めていた。私の母も俳句が好きで亡くなる寸前まで句作を続けていた。若いころからの趣味であった。晩年は吟行と称し、老いた母を車に乗せ近隣をドライブした。そんな折、私も見よう見まねで句を作って母に見せたが、母はゲラゲラ笑うだけであった。このような環境の中で私も句会に入り(誰でも入れる)俳句を学び始めた。農業と饅飰を詠んでみたかった。

投句をする場合、本名でよいのだが図々しくも私は「雨飰」を俳号とすることをお願いした。「晴耕雨読」が「晴耕雨飰」にそしてこれが私の生活のモットーであることを説明すると面白いと言って許可された。俳句も満足に作れないのに俳号「雨飰」、今となつては汗顔の

至りである。毎月投句があり、締め切りが迫ると頭を悩ませている。

「うどん」だけでは俳句の季語にならない。「そば」には「新そば」とか「そばの花」とかいろいろ季語がある。これは「うどん」は「そば」と違って「うどん」と言う植物がなく食べるものだけに付けられた名称だからと言われている。ただし、他の言葉と一緒に「鍋焼

きうどん」「釜揚げ饅頭」「夜泣きうどん」等の季語はある。このような状況からうどんの俳句は極めて少ないようであるが、江戸時代からの俳句の歴史の中では、それなりに詠まれていることが調べて解った。俳句の世界で著名な人も詠んでいる。それらの中で私の気に入ったものを10句選んでみた。

- ・うどん屋を探して歩く花の冷 (稲畑汀子)
- ・ねこ舌にうどんのあつし日短か (久保田万太郎)
- ・ぼろ市の戻りのおかめうどんかな (水原秋櫻子)
- ・素うどんの薬味の匂ひ一の酉 (鷹羽狩行)
- ・春寒や讃岐うどんの薄き汁 (角川春樹)
- ・真白なる湯気の釜揚げうどんかな (草間時彦)
- ・霧の山鳩酒とうどん日の暮れへ (金子兜太)
- ・うどん供へて母よわたくしももいただきます (種田山頭火)
- ・春の雪釜揚げうどん食うべかり (鈴木真砂女)
- ・真菰の馬太きうどんを背負いけり (笠原古蛙)

(鈴木 真砂女 故人)は銀座で「うなみ」という小料理屋を経営しており、生前、母と一緒に、時々飲みに行った。マッチに色々な俳句が印刷してあった。真砂女は90歳近くであったろうが毎日店に出ており伝説の人になっていた。瀬戸内寂聴の小説「いよよ華やぐ」のモデルの一人であった。先日久しぶりに店を

訪ねたが既に無かった。

(笠原 古蛙 故人)は私が入れてもらった結社「さぎなみ」の主宰を一時期なさっていた麻生区で最も著名な俳人の一人で、スーパーの経営者としてもよく知られていた。氏の尽力もあり地元の高石神社には多くの句碑があり、俳句好きのメッカとなっている。



うどん研修旅行・食べ歩き散策のあゆみ（主催事業）

年月日	目的地・店名・メニュー等	参加者	掲載号
2005年11月13日（日）	第1回うどん研修旅行（川崎支部として） 富士吉田市・忍野八海・浅間神社等 「立石茶屋」天ぷらうどん	40名	第15号
2006年11月2日（日）	第2回うどん研修旅行（川崎支部） 埼玉県桶川市・さきたま史跡博物館 「べに花ふるさと館」の田舎汁うどん	26名	第19号
2007年11月11日（日）	第3回うどん探訪ツアー 萩原町の大笠松・星野富弘美術館 桐生市「川野屋本店相生店」の天ぷら入りカレーうどん	28名	第23号
2008年11月16日（日）	第4回うどん食べ歩き 小平市ふるさと村で「麦蒔き日待ち秋のまつり」の イベントに参加「手打ちうどん処指田」の糧うどん 小金井市江戸東京たてももの園も見学	16名	第27号
2009年1月28日（水）	第5回うどん食べ歩き 麻生不動だるま市を見学後、 宮前区の洛中うどん「げた屋」でしじみうどん他	13名	第28号
2009年4月5日（日）	第6回うどん食べ歩き 川崎大師参詣後、若宮神社のカナマラ祭を見学 矢向駅下車「かめや」で各自希望のメニューを試食	13名	第10号 第29号
2009年11月16日（金）	第7回手打ちうどん食べ歩きツアー 深大寺・神代植物公園を見学後、 三鷹市深大寺町「手打ちうどん鷹」の天ざるうどん	12名	第32号
2010年1月21日（木）	第8回手打ちうどん食べ歩き 川崎大師の縁日・初大師を見学後、バス停貝塚で下車 「手打ち運吞六右衛門」の冷やし天もりうどん	10名	第36号

※掲載号は「麦穂だより」の号数を示します。

※第3回目までは、バスをチャーター。2011年以降、2020年まで年1回実施しています。

活動報告(前号以降)

7月4日(日) 第1回講習会 会場 川崎市青少年の家

10:00~12:30 参加11名 役員6名

13:30~16:00 参加 4名 役員6名

高津高校が工事により使用ができないので川崎市青少年の家で行いました。

午後の講習は、会長によるデモンストレーションが行われました。

9月11日(土) 道具の点検整備 9:00~13:00 参加8名

晴れの予報でしたが、突然の雨が降ったりしましたが、講習会で使用する道具を全部洗い、包丁も研ぎすべての道具を点検を致しました。

道具の点検日は、例年9月の第1又は第2土曜日に設定していますが、台風襲来と重なることが多く、当日の天候次第で実行か延期かを判断する難しさがあります。

今年は曇りながら9時前に早速作業に取り掛かりました。麺棒、麺板、まな板、ボウル等々、外箱から中味を全部出し、点検・整理をし、洗って干して外箱もきれいにしました。

大変なのは包丁研ぎでした。中野幹事が一人で錆を落とし、研いで油分を補うなどのメンテナンスをしました。干した道具をもっと乾かしたい矢先に、突然の雨で慌てて取り込みました。

作業に夢中で、写真撮影を忘れました。解散後、天気が回復して暑くなったのは、皮肉な結末でした。



7月4日講習会



7月4日講習会

うどんうどんうどんうどんうどん あとがき うどんうどんうどんうどんうどん

雨鮎という俳号で句作のみならず、うどんに関する名句をたくさん紹介して下さった会長さんの多才ぶりに敬服です。今後の予定については、事務局長からその都度連絡をいたします。

新型コロナウイルスの感染者が激減して、マスク不要の日常生活が一日も早く戻ることを切望しています。(光)